

# 秋のたより

発行 我孫子市民図書館  
〒270-1147 我孫子市若松26の4  
電話 04-7184-1110



最後の頁を閉じた  
違う私が出た  
2021・第75回 読書週間  
10/27～11/9



## 布佐分館の会議室をご利用ください

2階にある2つの会議室、営利目的でなければちょっとした集まりに使えます。(有料)  
詳しい「利用案内」は図書館ホームページ、布佐分館にご用意しています。

### 第1会議室



絨毯敷きの床ですが、土足でご利用いただけます。  
スポットライトを設置してあります。自分の作品を飾る“小さなギャラリー”のような使い方もできます。

(使用料 半日¥500)



### 第2会議室

落ち着いた雰囲気の小会議室です。  
少人数からのご利用に適しています。  
イス・机が設置済みですので、すぐにお使いいただけます。

(使用料 半日¥400)



## ミニギャラリーからのお知らせ



2021.6月「折り紙」の展示の様子

### 市民の皆さまの作品を飾りませんか？

お一人で、またはグループで制作した水彩画や油絵、写真、書、パッチワーク、編み物や折り紙などを展示いただけます。月交代で、展示しています。新規にご応募くださる方も、大歓迎。

湖北台分館にも場所があります。詳しくは、各館にお問い合わせください。(申込み制、無料)

お問合せ：布佐分館 04-7189-1311  
：湖北台分館 04-7187-3055

## 新しいそよかぜ号誕生！

新型コロナウイルス感染症の影響で、児童・生徒が図書館に来館しにくい状況が続いています。そこで、地方創生臨時交付金により、新しく移動図書館車両を購入し、10月から市内の小学校9校と中学校1校に出向き、子どもたちの読書環境維持に活用します。

新車両は、本を読む「手賀沼のうなぎちゃん」を中心に、色とりどりの本を配置した明るいデザインです。子どもたちに、本だけでなく楽しさや明るさも届けることを目指します。



## 令和4年1月から、図書館ホームページが変わります！

トップページが大きくリニューアルします。現在のトップページの各メニューの配置が変わります。

### 『こどものページ』を開設



子どもたちが自分で使えるページ構成にします。「としょかんのぎょうじ」や「おすすめの本」など子ども用の内容を掲載、「としょかんのつかいかた」もありますので、自分で本を探することができます。「保護者・子どもの読書に関わる方へ」のページも作ります。子どもたちの読書にお役立てください。



### パスワードを手に入れよう



パスワードがあれば、ログインして利用者メニューをご利用になれます。本の予約、貸出期間の延長、My本棚(現在のマイブックリスト)の利用などができます。パスワードの発行は、ホームページの利用者メニュー内、館内検索コンピュータにてご自身で行なえるようになります。(図書館カウンターでも発行します。)

[発行対象] 我孫子市内在住・在勤・在学の方(年齢制限なし)  
(その他協定により取手市・利根町在住の方)

[申請に必要なもの] 我孫子市民図書館利用カード  
(図書館カウンターで発行の場合は申請書提出)



### 臨時休館・ホームページ停止のお知らせ

システム更新・ホームページリニューアルにともない、臨時休館・ホームページ停止をします。

[臨時休館期間] 令和3年12月27日(月)～令和4年1月13日(木)

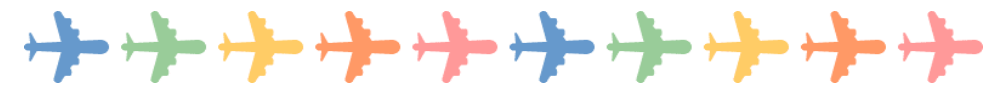
[ホームページ停止期間] 令和3年12月26日(日)17時～令和4年1月11日(火)9時半  
市内の図書館は全館休館です。

また、12月26日(日)アピスタ本館は17時で閉館します。

移動図書館も12月25日(土)～1月18日(火)まで巡回はありません。







### 『世界の児童文学をめぐる旅』 池田 正孝/著 エクスナレッジ

物語の舞台を実際に訪ねてみたいと思ったことはありませんか？  
著者は40年以上にわたり、英国を中心に児童文学の舞台となった場所をめぐり、写真に収めてきました。この本では、その貴重な記録の中から26か所を選び、作品の背景や作者の生い立ちなどに触れながら、紹介しています。海外には、物語のモデルとなった建物や風景が現在でも数多く残っており、暮らしの中に息づく歴史や風土を含めて、物語世界に浸る機会を与えてくれます。  
なかなか旅行にも出かけられない今、読むだけで旅をした気分になれる上、いつか訪れる日のための予習と思って、計画を立ててみるのもおすすめです。



【池田 正孝】 中央大学名誉教授、専門は中小企業論。東京子ども図書館元評議員、理事。児童文学に魅せられ、物語の舞台を訪ねて撮影、全国の図書館等でスライド上映・講演会を行っている。2011年日英協会賞受賞。



『ニルスのふしぎな旅』 1～4  
ラーゲルレーヴ/作 偕成社  
14歳の少年ニルスはいたずらがもとで小人にされてしまい、ガチョウのモルテンに乗ってスウェーデン縦断の旅をする。

全国の図書館等で講演され、ご活躍だった池田先生ですが、7月にご逝去されました。  
我孫子市でも講演をお願いする予定でしたが、叶いませんでした。ご冥福をお祈りいたします。



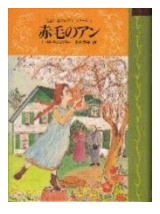
### 『ハイジ』 上・下

J・シュペーリ/作 福音館書店

両親と死に別れ、山奥に暮らす頑固者のアルム爺さんに預けられたハイジ。天真爛漫なハイジは、すぐに大自然の中での暮らしを気に入り、伸び伸びと過ごす。そして、最愛の娘を亡くし深い悲しみに沈む医者や、病弱で足が悪く歩けない少女クララのように訪れた人にも元気を与えていく。



アルムの山の緑の牧場に咲き乱れる色とりどりの草花や、夕日が山々を照らす美しい瞬間など、ハイジが愛した壮大なアルプスの大自然が生き生きと描かれている。



『赤毛のアン』  
L・M・モンゴメリー/作 講談社



### 『ベグル・チームの作戦』

E.L.カニグズバーグ/作 岩波書店  
ニューヨーク郊外の町に住むマークが所属する少年野球チームは、昨年成績最下位の連敗チームだ。ところが今年の新監督はママ、コーチは兄さん！果たしてチームは強くなれるのか。



マークの視点から語られ、家族の言い合いの場面描写にもユーモアが光る。生き生きとした人々の生活の様子は現実味にあふれていて、男女平等など人権意識が社会に広まり始めた1960年代のアメリカの空気感の中へと誘ってくれる。

### 『アンデルセン童話集』 1～3

大畑末吉/訳 岩波書店



「おやゆび姫」や「みにくいアヒルの子」に代表される数々の物語、「雪の女王」などアンデルセン童話と知らずに幼少期から触れてきた作品もあるのではないだろうか。時代を超えて世界中で語り継がれるのは、作者が貧しさの底から見出した人間の「よりよく生きる鍵」が、美しい自然と共に散りばめられているからかもしれない。

作中の風景は、花や森、水などの自然の美しさが細かに描かれ、作者の育ったデンマークを思わせる。天使や神などが詩的に表現され、まるで絵画を見ているようだ。

### 『時の旅人』

アリソン・アトリー/作 岩波書店  
ロンドンに住む少女ペネロピーは、伝説や昔話、歴史物語が大好きで、自分でもお話を創作する。ある冬、ダービシャー地方で過ごすペネロピーは、時空を超えて異世界に迷い込み、イギリスの歴史を揺るがす事件に巻き込まれてしまう。



英国東北部ダービシャー地方は、山と渓谷に囲まれた美しい場所である。今でも古びた教会や農家の家並、崩れかけた石積みや屋敷など歴史を感じさせるものが見られる。

### 『ピーターラビットのおはなし』

ビアトリクス・ポター/さく・え 福音館書店  
いたずらなうさぎのピーターが、お母さんの言うことを聞かずにマグレガーさんの畑に忍び込み…。



小さな生き物たちを主人公に自然豊かに描かれた絵本のシリーズ第1巻にして、作者ビアトリクス・ポターの処女作。舞台のモデルの一部となったのは、イギリス（イングランド）湖水地方ウィンダミア近郊のニア・ソーリー村。村に程近いエスウェイト湖はポターが「私の湖」と呼ぶほどお気に入りの場所だったそう。自然保護団体ナショナル・トラストの活動に支えられ、訪れた人は現在もポターの愛した自然を見ることができる。

### 『トムは真夜中の庭で』

フィリップ・ピアス/作 岩波書店



おばさんの家で休暇を過ごすことになり退屈していたトムは、真夜中に古時計が13回も時を打つのを聞き、ベッドを抜け出すと、あるはずのない庭園に出た。そこでふしぎな少女ハティと出会い、友だちになる。

### 『秘密の花園』

F・H・バーネット/作 福音館書店

両親を一度に亡くしたメアリはイギリスの田舎に住む祖父に引き取られるが、その屋敷には10年間誰も入ったことがないという「秘密の庭」があった。草花も木も枯れ荒れ果てた庭の再生を通し、子どもたちが心豊かに成長する物語。



今も数多く見られるイングリッシュガーデンはヴィクトリア朝時代、それまで流行していた人工的なフランス式庭園に対し、ありのままの自然を尊ぶ庭園様式として誕生し、作者が愛した庭園には現在も美しくバラが咲き誇っている。

コロナ禍でも、楽しい計画を立てて気分転換！  
本を読んで終息を待ちましょう。

### 『ピーターパンとウェンディ』

J・M・バリー/作 福音館書店

永遠の少年ピーターパンとウェンディたちのネバーランドへの旅と冒険の物語。多くの人々が知る物語誕生の場はロンドンのケンジントン公園である。作者J・M・バリーがよく散歩していた公園で、ネバーランドのモデルになったサーペンタイン池の「小鳥たちの島」や、バリーが子どもたちを驚かせようと建てた、妖精たちに囲まれたピーターの銅像がある。都会の中の水と緑豊かな公園を歩いてみれば、物語世界をより感じられるかもしれない。



### 『運命の騎士』

ローズマリ・サトクリフ/作 岩波書店

アランデル城で犬飼いとして暮らす少年ランダルに親はいない。身分差を超えて親友となった少年ペービスと共に成長し、お互いにかげがえのない存在となっていくが、過酷な運命が二人を待ち受ける。



11世紀、イギリスがまだまだ北方系民族などから侵略を受け、混沌としていた時代が舞台。物語冒頭でランダルの運命が一変する出来事が起こる城門は現存している。表紙の写真は、見返しながら読み進めれば何世紀も前の世界へと導く役割を果たす。



### 『エーミールと探偵たち』

エーリヒ・ケストナー/作 岩波書店